

## MSUB 留学報告書

文学部英語英米文学科 4年 古賀瞭大

### 1. はじめに

本来、熊本県立大学の MSUB への留学プログラムは9月から翌年の5月まで、2セメスターの派遣となります。私の場合は諸事情あり、後半の1セメスターのみの派遣となってしまいましたが、短いながら私なりに MSUB ではたくさんの経験をする事ができましたので、この報告書ではそれらについて述べていきたいと思えます。

### 2. 大学生活



留学生は基本的に大学内の寮に住むこととなります。寮からは学校のすべての施設（各教室、図書館、食堂、カフェ、ジムなど）に歩いてアクセスすることができます。自分の部屋はシングルルームかダブルルームを選ぶことができ、私の場合はダブルルームを選択したので、ルームメイト（アメリカ人）と二人で住んでいました。ルームメイトに関しては、事前に生活習慣や自分の性格などについてのアンケートを受け、それをもとに大学側が自分に合いそうなルームメイトを用意してくれます。私は性格の合うルームメイトが付いてくれたので非常に満足していましたが、中にはミスマッチを感じる友達もいましたので、どうしてもプライベートな時間が欲しいという人はシングルルームがおすすめかもしれません。というのも、4. 国際交流にて詳しく述べますが、交流の場がルームメイトの他にもたくさんあるからです。食事に関しては、寮の一階にある食堂で行うことができます。バイキング形式で、私は大抵昼と夜の2回利用していました。メニューは大体固定ですが、一品は必ず日替わりで提供されていました。もう一つオプションとして、食堂の横にあるカフェにもよく行っていました。軽食やスタバのドリンクがあり、便利です。

さらに寮の各フロアには共同のキッチンが付いています。私はたまにインド人やネパール人の友達とそこでカレーを作ったりしていました。

### 3. 授業



授業については、1セメスターに最低12クレジットを取るようになります。私は3クレジットの授業を4つ取りました。私の場合は後期から参加したということもあり、なかなか授業を自由に取りることができなかつたように感じました。特に私の専攻である言語学の授業を取ることができなかつたことは少し残念でしたが、その代わりに、今まで学んだことがないような内容の授業も取れたので、少しチャレンジではあったものの今となれば貴重な体験だったと感じています。大抵の授業は週に3回あるので、取っていた授業数は日本の大学より少なく感じますが、課題が多いこともあり、予習と復習で大変でした。授業の形態はやはりディスカッションやプレゼンテーションが多い印象で、時には先生から急に当てられて意見を求められることもありました。講義中心の授業も、生徒が積極的に質問をするので生徒の参加度が非常に高いです。また、コロナ禍ということもあり、オンライン授業も取らざるを得ず、その場合は課題提出が中心となりました。

### 4. 国際交流



交流はアメリカ人だけとは限りません。MSUBには世界中からたくさんの留学生が来ているので、そういった人たちとの交流もたくさんありました。特に私は同じ時期にMSUBに来たインド、ネパール、ドイツ、フィンランドの留学生たちと友達になりました。彼らはそれぞれ全く違う言語、文化圏から来ているのですが、英語が私たちを繋いでくれました。彼らと一緒に一泊二日で旅行へ行ったり、スキーに行ったり、一緒に昼食を食べたりした何気ない瞬間なんかも、今となってはかけがえのない思い出です。アメリカ人との交流はルームメイトと、BFFと呼ばれるフレンドシップファミリーの方が中心でした。ルームメイトとは部屋で一緒にゲームをしたりアニメを見たり、たまにご飯に行ったりしていました。BFFの方は車で、教会やイエローストーン国立公園など様々なところに連れて行ってくれました。また、アメリカとモンタナの文化、歴史、宗教観など、大学生同士の付き合いではあまり触れないトピックの話もたくさんしてくれたのでとても勉強になりました。

#### 5. 普段意識して行っていたこと

普段の生活の中では、今まで見たことも聞いたこともない単語や言い回しが、往々として会話の中に出てきます。最初はそれに戸惑ったのですが、私はそのような単語や表現に出会うたびに、その場で聞けない時は、聞こえた音だけをスマホにメモして、後で調べるようにしていました。最後には自分だけの単語帳が出来上がっていました。個人的に留学生活は、今までの英語学習では決して出会わなかったけれどネイティブがよく使う単語や表現をたくさん吸収することができ、新しく覚えたそれらの表現をすぐに会話で使うことができる最高の環境だと感じました。

#### 6. 「これをしておけばよかった」ということ

やはり政治のトピックとなると非常に難しかったです。留学生の間でそのような話になった時、みんなはすごくヒートアップしているのに自分だけ取り残されるようなことがありました。私の英語力にも問題はありますが、そもそも普段から政治に関心を持っていなかったというのが一番大きな問題です。政治に関して自分なりに意見を持ち、それを英語で表現することに慣れておけばよかったと思いました。

#### 7. 最後に

私が英語に関心を持ったのは中学の時です。その時から「大学生になったら留学に行きたい」と思うようになりました。それもあって私の英語学習は常に会話を意識したものでしたし、日本にいる間は自分の英語力には自信があったのですが、一度アメリカに行ってみるとその自信は根底から覆されました。最終的にその時感じたことが、私の学習意欲をさらに高めてくれましたし、「もっと英語が上手になりたい！」というモチベーションにつながりました。また、留学生活で得たものはそれ

だけではありません。MSUB での生活を通して彼らとの文化の違い、考え方の違いを目の当たりにした時、私の視野がいかに狭かったのかと気づくことができました。私にとっては今回の留学が初の海外だったので、最初は少し不安もありましたが、今は留学に行く決断をしたことを本当によかったと思っています。この報告書を読んでいる皆さんも、少しでも留学に行きたいと思っているのであれば、思い切って挑戦して欲しいと思います。

